

静岡県景観形成推進
アドバイザー総覧
2025

静岡県

静岡県景観形成推進アドバイザー一覧	1
静岡県景観形成推進アドバイザープロフィール	3
静岡県景観形成推進アドバイザー制度の概要	39

景観・まちづくり

氏名	専門分野	掲載ページ	備考
天野 光一	景観・デザイン論／観光計画	3	※
伊藤 光造	都市計画／景観計画／コミュニティ・建築デザイン	4	※
金田 享子	サインデザイン計画／コミュニケーションデザイン	5	
川口 宗敏	都市デザイン／都市計画／建築デザイン	6	
齋藤 潮	景観論／地域景観論／公共空間デザイン論	7	
西森 陸雄	建築デザイン／まちづくり ほか	8	
伊藤 登	景観デザイン	9	※
岡田 智秀	景観まちづくり	10	※
加藤 幸枝	環境色彩デザイン／色彩計画	11	※
吉田 慎悟	環境色彩計画	12	※
荒井 歩	景観計画／景観工学／ランドスケープ	13	
磯村 克郎	公共空間のデザイン／公共物のデザイン	14	
亀井 暁子	建築設計／建築と景観／建築と地域／大規模施設	15	
川口 良子	地域計画／まちづくり／建築	16	
寒竹 伸一	建築設計／都市計画／景観計画	17	
塩見 寛	景観まちづくり／歴史まちづくり ほか	18	
清水 裕子	景観／創造都市／文化によるまちづくり	19	
高木 敦子	環境デザイン／地域づくり	20	
田中 孝治	地域振興／観光地域づくり	21	
土屋 和男	建築史・意匠／都市形成史	22	
東 恵子	環境デザイン／色彩／まちづくり	23	
福井 恒明	土木デザイン／文化的景観	24	
山内 秀彦	都市計画／環境／農山村／観光振興	25	
木下 勇	都市計画／まちづくり／ランドスケープ	26	

※ 静岡県景観懇話設置要綱に基づく公共空間高質化専門部会員

教育・観光

氏名	専門分野	掲載ページ	備考
渡邊 靖乃	教育 探究学習 地域連携	27	
Tony Everitt	国際観光	28	
青木 辰司	環境社会学／グリーン・ツーリズム・「農泊」の推進 ほか	29	
岩崎 邦彦	マーケティング／ブランドづくり	30	
紅林 眞実	緑地施工管理／地域コミュニティ再生と地域プロモーションほか	31	
坂野 真帆	地域づくり／観光	32	
佐藤 雄一	地域の景観・風土などを活かした商品・サービス開発 ほか	33	
白井 昭義	観光とまちづくり／観光マーケティング ほか	34	
廣住 和良	コミュニケーションプラン／コピー・デザイン	35	
堀川 知廣	農業政策／産業政策	36	
山本 早苗	社会学（環境社会学）／民俗学／社会調査法	37	
卯月 盛夫	ユーザー参加の公共施設づくり／こどものまちづくり	38	



天野 光一 (あまの こういち)

所属・役職

一般社団法人パブリックデザインコンソーシアム 理事・会長

専門分野

景観・デザイン論／観光計画

経歴

1980年東京大学土木工学専攻終了後、建設省、東京工業大学工学部、日本大学理工学部、東京大学、日本大学理工学部社会交通工学科教授を経て、2013年よりまちづくり工学科教授

住んで良し訪れて良しのまちづくり、美しい社会基盤施設のデザインなどを専門とする。静岡県下富士宮市などの景観審議会の委員長を務めるとともに、白糸の滝の整備にもかかわる。国レベルでは道路付属物等ガイドラインの作成にも関わる。

市町職員へのメッセージ

美しく、住んで良く訪れて良いまちづくりにとって基礎自治体の果たすべき役割は大きい。住民が満足することを超えて、日本に世界に誇れるまちを形成できるよう、無駄にお金をかけない、良いまちづくり、美しい構造物づくりのアドバイスをします。



伊藤 光造 (いとう こうぞう)

所属・役職

NPO法人くらしまち継承機構理事長、しずおか民家活用推進協議会会長

専門分野

都市計画／景観計画／コミュニティ・建築デザイン

経歴

1974：早稲田大学理工学部大学院卒（都市計画専修）

1983：地域まちづくり研究所設立

2013～：NPOくらしまち継承機構・理事長

景観法以前から、静岡県、沼津市、旧修善寺町等多数の景観計画策定等に関わってきた。また県内市町の景観計画審議会等の座長・委員、静岡県景観懇話会評価部会会長を務める。あるいは都市計画・コミュニティデザイン、まちづくり市民・住民参加に関し、審議会・委員会の会長・委員・専門アドバイザーとして関わっている。近年はNPOとして、歴史街並保全、民家・空き家再生などの活動を行っている。

市町職員へのメッセージ

景観は、奥が深く間口も広いものです。そこから得られる価値・効果も非常に大きいと考えます。

行政として取り組む際には、基本は景観法に基づいて行うわけですが、ただその際、特に建設部門で所管する場合、まずどこから始め、どのように展開し、発展・定着させるかの、戦略が重要です。また一方で、できあがるものがないデザインでないといけない。さらに景観創出のしくみ、特に市民参加などの手法も大切です。それぞれの状況に照らし、実現可能なアドバイスをします。

さらに景観法にもとづく行政施策、例えば景観計画策定、建築物景観誘導方策、公共施設景観デザイン、景観学習・ワークショップ、コミュニティ景観向上など市町の景観への取り組みに対応した実務的助言が可能です。



金田 享子 (かねだ きょうこ)

所属・役職

アトリエ景株式会社 代表取締役／公益社団法人日本サインデザイン協会 専務理事

専門分野

サインデザイン計画／コミュニケーションデザイン

経歴

浜松市生まれ。千葉大学工学部工業意匠学科卒。

公共・民間を問わずあらゆる施設のトータルなサインデザイン計画、CI/VIデザインシステムの開発が専門です。近作としては大阪ステーションシティ、愛知学院大学名城公園キャンパス、城山ホテル鹿児島、ぴあアリーナMM、インターコンチネンタルホテル別府など。また屋外広告物や広告景観に関する取組として、専門誌「signs」の編集、新宿区景観まちづくり相談員、静岡県景観賞審査特別審査員などを務めています。

情報をわかりやすく伝えるだけでなく、景観や空間の力を引き出すサインデザインを心がけています。

市町職員へのメッセージ

屋外広告物や公共施設のサインデザインが良くなることは、地域の誇りになり、来訪者へは地域の魅力を伝えることにつながります。静岡県には、自然景観だけでなく、産業と共に育まれた景観資源が豊富に存在していると思います。地域の素晴らしさの再発見と発信を一緒に考えていきましょう。



川口 宗敏 (かわぐち むねとし)

所属・役職

静岡文化芸術大学 名誉教授

専門分野

都市デザイン／都市計画／建築デザイン

経歴

1979年ハーバード大学大学院都市デザイン学科修了。パオロ・ソレリ氏と丹下健三氏に師事、川口建築都市設計事務所・専務（現デザイン・アープ）、東海大学と静岡文化芸術大学の教授を経て、現職。

1980年代より、静岡県内各地の建築設計や景観計画とも関連した都市計画に携わる。同時に、静岡県内の県・市・町の審議会や委員会にも数多く参加。

市町職員へのメッセージ

景観という、摩訶不思議な事象に対して、共に考えてみましょう。



齋藤 潮 (さいとう うしお)

所属・役職

東京工業大学 名誉教授

専門分野

景観論／地域景観論／公共空間デザイン論

経歴

1983年 東京工業大学大学院 理工学研究科 社会工学専攻修了

1983年 東京工業大学工学部助手

1990年 運輸省港湾技術研究所主任研究官

1992年 東京大学工学部助教授,

1996年 東京工業大学大学院社会理工学研究科助教授

2001年 同教授

2016年より東京工業大学環境・社会理工学院 教授

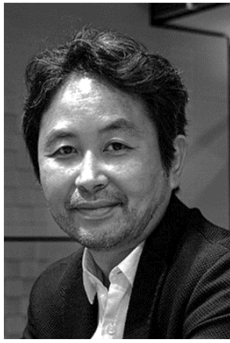
2023年4月より東京工業大学 名誉教授

景観一般について研究と実践を重ねてきた。景観論では、定型化・形骸化した景観の捉え方から脱却して、景観をそもそも論から考察、地域景観論では故郷論を展開。いっぽうで港湾や海岸について景観的知見・景観設計の方法論の蓄積あり。

市町職員へのメッセージ

当研究室では長年、地域の景観的特質を考慮した公共施設の景観設計を中心に、市民と行政の間にたって、設計提案やワークショップを実践してきた。

特に、高潮対策事業における良好な景観創出について経験豊富。



西森 陸雄 (にしもり りくお)

所属・役職

工学院大学建築学部建築デザイン学科 教授

専門分野

建築デザイン／まちづくり／コミュニティデザイン
産業振興および農商工連携

経歴

1986年早稲田大学博士課程前期修了

1986年～1991年AUR建築都市研究コンサルタント

1991年～1993年ROMA MASSIMILIANO FUKSAS ASSOCIATI 勤務

1997年 有限会社西森事務所設立

2008年 工学院大学准教授を経て2013年より現職

2011年より伊豆半島の各市町をはじめ、静岡県内各地、および長野県内各地でまちづくり、地域活性化、景観計画の策定などのサポートをしている。また長野県、奈良県、八王子市では食と農の活性化による六次産業事業の実現援助や、食のブランドショップの企画プロデュースも実施してきた。大学では建築のゼネラリストになる人材の育成を目指し、実践の場として地域の活動に学生とともに参加している。建築とまちづくりをボーダーレスにつなぐ活動がモットー。

市町職員へのメッセージ

景観とは物理的な建物や都市の姿だけでは語れません。人の行為や産業と結びついて初めて景観が成立します。景観整備をすることは、すなわち地域の活性化やブランド化を意味しますので、産業振興や観光、そして教育と結びつくものと考えて、将来のビジョンを作って行きましょう。



伊藤 登 (いとう のぼる)

所属・役職

株式会社プランニングネットワーク 代表取締役／一般社団法人パブリックデザインコンソーシアム 理事長

専門分野

景観デザイン

経歴

昭和57年3月千葉大学園芸学部卒業

昭和59年3月東京工業大学修了

清水建設、ポリテクニクニックコンサルタンツを経て、平成元年株式会社プランニングネットワークを設立。

以後、まちの景観づくりや河川・水辺、道などの景観デザインを実践している。

市町職員へのメッセージ

景観にはまちの暮らしぶりが表れます。これらは民間の建築物のみならず、道や公園、水辺などのあり方や使い方によっても大きく変わります。これからの時代には施設や空間をつくるだけでなく、整理撤去することも必要と考えます。



岡田 智秀 (おかだ ともひで)

所属・役職

日本大学理工学部まちづくり工学科 教授

専門分野

景観まちづくり

経歴

平成8年 日本大学大学院理工学研究科博士課程（海洋建築工学専攻）修了

平成10年 日本大学理工学部助手

平成19年 米国ハワイ州立大学海洋・地球科学研究所客員研究員

平成27年 日本大学教授／現在に至る

静岡県内では現在、富士山世界遺産の構成資産である「三保松原」の景観に配慮した新型海岸構造物の設計開発のほか、各市町の津波対策に伴う防潮堤の嵩上げ・延伸整備に対する景観アドバイスに取り組んでいます。

市町職員へのメッセージ

海岸地域や港湾地域など、海辺・ウォーターフロントのまちづくりが専門です。内陸の市街地にはない、ウォーターフロントや海辺ならではの魅力発掘や魅力形成に取り組んでいます。静岡県も多種多様な海辺・ウォーターフロントを擁していますので、行政と地域住民と連携しながらその地域のあるべき姿を導いていきたいと考えています。



加藤 幸枝 (かとう ゆきえ)

所属・役職

有限会社クリマ 代表取締役

専門分野

環境色彩デザイン／色彩計画

経歴

武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒。

トータルな色彩調和の取れた空間・環境づくりを目標に、建築の内外装を始め、ランドスケープ・土木・照明デザインをつなぐ環境色彩デザインを専門としている。

アドバイスできる事項：公共施設・設備等の色彩検討・色彩選定／サイン・屋外広告物デザイン検討および色彩選定／色彩に関するワークショップ企画およびファシリテート／色彩および景観まちづくりに関する研修会等講師

市町職員へのメッセージ

公共空間における色彩は好き嫌いや個人のセンスの問題ではありません。その地域や場所の特性、施設や設備の用途や規模・材料等にふさわしい色彩があります。現地へ出向き、状況を見ながらアドバイスを行い、担当者が自信を持って検討・選定できるよう、環境色彩の方法論をお伝えします。



吉田 慎悟 (よしだ しんご)

所属・役職

有限会社クリマ 取締役

専門分野

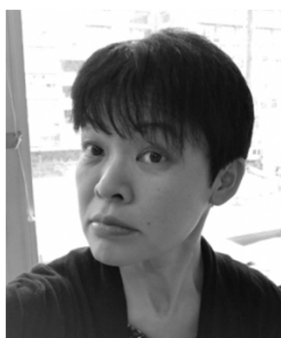
環境色彩計画

経歴

1972年武蔵野美術大学造形学部卒業後、渡仏。カラリスト、ジャン・フィリップ・ランクロ教授に色彩計画を学ぶ。日本の建築外装色を調査し、建築の慣用色を導き出して、外装色を数値でコントロールする手法をつくった。静岡県他、多くの自治体の景観アドバイザーや景観審議会委員を務める。また、最近ではUR都市機構の団地再生のための改修計画や中国の都市の色彩ガイドライン策定等を進めている。

市町職員へのメッセージ

色彩は景観を構成するすべての要素と関係しています。そのため直接の検討対象となるものの色彩を単独で検討しても景観は向上しません。周辺にあるものとの色彩の関係性を整えて、地域の個性を育てていくように考えて、アドバイスをします。



荒井 歩 (あらい あゆみ)

所属・役職

東京農業大学地域環境科学部造園科学科 教授

専門分野

景観計画／景観工学／ランドスケープ

経歴

東京農業大学大学院農学専攻博士後期課程修了、博士(農学)、
1998年 東京農業大学地域環境科学部造園科学科 助手、准教授を経て現職
埼玉県八潮市にてワークショップによる農地マナーブック作成や緑の基本計画
策定に調査・運営から携わる。現在(2022年)は東京都武蔵野市、神奈川県茅ヶ
崎市、静岡県・静岡市等の景観アドバイザーを担当。市民への景観レクチャー
も実施可能。

市町職員へのメッセージ

「景観10年、風景100年、風土1000年」という言葉があります。真剣に景観ま
ちづくりに取り組めば10年後必ず結果が見えます。そしてまずは、景観1日目
への第一歩が大切です。みどり(農地含む)を活用した景観計画・景観デザイ
ン・景観まちづくりへのアドバイスをわかりやすく行います。



磯村 克郎 (いそむら かつろう)

所属・役職

静岡文化芸術大学 名誉教授／Public Studio（デザイン事務所）主宰

専門分野

公共空間のデザイン／公共物のデザイン

経歴

1982年 九州芸術工科大学 卒業

1982年 GKインダストリアルデザイン研究所

1983年 GK設計

1995年 デザイン総研広島

2001年 富士通コワーコ

2009年 静岡文化芸術大学

都市の景観、街路、広場、ストリートファニチャー、サイン、製品開発、ICT施設のデザイン実務に東京、横浜、仙台、伊勢、三田、広島、小倉、浜松などで携わりました。

近年では、地域の中心市街地活性化のまちづくりに、市民ワークショップからデザイン提案まで研究室や地元メンバーで取り組んでいます。

市町職員へのメッセージ

グローバリズムと成長神話の限界がみえて来た今、いよいよ地域の時代です。まちなかにサテライト研究室を開設していましたが、市民主体のおもしろいプロジェクトや個性的な方々に関わると、地域の可能性も見えそうです。公共性や景観という背景を持ちつつ、現場や身近な視点から、一緒にデザインを考えましょう。



亀井 暁子 (かめい あきこ)

所属・役職

静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科建築・環境領域 教授

専門分野

建築設計／建築と景観／建築と地域／大規模施設／サステイナブルデザイン／教育のための空間

経歴

1996年 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

1996年～2013年 株式会社日本設計

2013年～ 静岡文化芸術大学 講師、准教授を経て現職

2019年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。博士（工学）

前職では、公共施設や教育施設等、敷地規模が大きく環境や景観への影響が大きい施設の設計に日本各地で携わってきました。また、現職に着任後も、県内の公共施設の基本デザイン等を大学で受託し学生と取り組み、広域景観と連関するその場所ならではの、建築デザインを設計・提案しています。

市町職員へのメッセージ

設計実務経験と県内各地でのプロジェクト取り組みや各種委員等の経験を活かし、各種課題に対し提案の視点をもって取り組みます。



川口 良子 (かわぐち りょうこ)

所属・役職

合同会社デザイン・アープ 代表社員

専門分野

地域計画／まちづくり／建築

経歴

昭和57年 豊橋技術科学大学大学院

建設工学課程修了

昭和57年 川口一級建築設計事務所勤務

昭和61年（株）川口建築都市設計事務所取締役

平成23年 上記、改組改名に伴い現職

街路の修景や建築設計の実務経験を踏まえながら、地域の人達が進める景観まちづくりのお手伝いをしてきました。

市町職員へのメッセージ

地域で共に暮らし活動する人々が、より良い景観を創りだす当事者として行動していくための仕組みづくりをアドバイスします。



寒竹 伸一 (かнтаけ しんいち)

所属・役職

静岡文化芸術大学 名誉教授

専門分野

建築設計／都市計画／景観計画

経歴

1978 東京大学工学部建築学科卒業
1980 丹下健三都市建築研究所
1985 国土庁大都市圏整備局計画課
1989 ブラハマアソシエイツ都市建築研究所設立
2002 静岡文化芸術大学准教授
2004 同教授
2025 静岡文化芸術大学副学長を経て2025年から現職

市町職員へのメッセージ

丹下健三都市建築設計研究所在籍時には、ナイジェリアの新都市計画、中近東の王族施設、シンガポールの銀行本店高層ビルなど、約20のプロジェクトに関わり、パリのイタリー広場、シドニーのワールドスクエアを主任建築家として担当しました。

国土庁（現国土交通省）在籍時には、第四次全国総合開発、首都圏基本計画、首都圏整備計画を担当しました。

1989年に、(株)ブラハマアソシエイツ都市建築研究所を設立し、建築設計・監理から都市計画・地域計画・ランドスケープまで広範囲のデザイン活動を展開し、90を超えるプロジェクトを完成させています。



塩見 寛 (しおみ かん)

所属・役職

Kei_まちづくりネットワーク代表／NPO法人くらしまち継承機構理事／街なかを元気にするまちづくりの会代表

専門分野

景観まちづくり／歴史まちづくり／街の個性を活かしたまちづくり

経歴

九州芸術工科大学環境設計学科卒業

筑波大学大学院環境科学研究科修了

博士(工学)：東京大学

静岡県庁(1979-2010)では県立大学建設：新キャンパス設計、音楽公園構想・基本計画策定、国体準備、東部コンベンションセンター事業コンペ・設計等に従事。

名城大学環境創造学科「都市環境設計」非常勤講師(2015-21)

常葉大学法律学科「静岡学演習Ⅰ,Ⅱ」非常勤講師(2017-23)

静岡県建築士会景観整備機構副代表として、焼津花沢の里伝建地区の景観保全、大井川中流域の景観育て等に取り組んできた。また、文化庁、国交省の委託事業として、地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化、災害時の歴史的建造物の価値保全等に取り組む。

市町職員へのメッセージ

元近江八幡市長の川端五兵衛氏は、景観認識には5段階があると述べています。1無関心、2気づく、3景観はみんなのもの、4景観はわたしのもの、5景観は私たちのもの。私はさらに進めた第6の段階があると考えています。この景観は「私たちだけのもの」。これは「他にはない、ここにしかない、自慢できる景観」という意味です。

それぞれの地域には、そのまちにしかない物語が必ずあります。人々が住み続けてきた生活の積み重ねのなかに、そのまち固有のものが物語となって存在するのです。それらを見出し評価し、まちづくりに組み入れていくことが大切だと思います。第6段階に高めていける景観への取り組みが求められていると思います。



清水 裕子 (しみず ひろこ)

所属・役職

大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員／NPOアート＆ソサイエティ研究センター 副代表理事

専門分野

景観／創造都市／文化によるまちづくり

経歴

米国、南カリフォルニア大学大学院芸術建築科修士修了。アートや建築、都市計画のディレクションや展覧会の企画運営に携わり、景観、都市環境や社会との関係を研究、各地での活動、実践に取り組む。静岡県景観賞審査員、三島市せせらぎ事業アドバイザー、ガーデンシティ・アドバイザー、景観審議委員などを経て、現在、静岡県都市公園審議会委員、評価委員。海外の住民参加によるまちづくりや都市計画などの事例を数多く実地調査し、それにもとづき、そのまちの独自性を分析、独自の景観、まちづくりにアドバイス、貢献します。

市町職員へのメッセージ

地域資源を再発見し活かして、その土地にしかない景観のあり方、創造的まちづくりを研究、実践しています。新たに創るのではなく、今あるものを活かして、住民のみなさんとともにまちの独自性を育て、発信することにアドバイスできればうれしいです。



高木 敦子 (たかぎ あつこ)

所属・役職

(有)アムズ環境デザイン研究所 代表取締役／NPO法人地域づくりサポート
ネット 副代表理事／NPO法人次郎長生家を活かすまちづくりの会 副理事
長／NPO法人新居まちネット 理事／NPO法人くらしまち継承機構 理事

専門分野

環境デザイン／地域づくり

経歴

武蔵野美術大学造形学部卒業

静岡大学非常勤講師(H13-16, H19-20)

地域の中で失ってはいけないアイデンティティとなる道や建物について、住民、
企業、活動団体等が行政と協働で取り組み、価値を高めていく等について実績
を持つ。

- 道を博物館として地域を歩く仕組みを静岡市内「東海道2峠6宿」として展
開している。
- 富士山周辺国道138号.139号の道路景観形成を地域一帯、協働で行う仕組み
で展開している。
- 旧新居町の小松楼、静岡市次郎長生家など失ってはいけない地域のアイデ
ンティティとなる建物の改修(費用捻出)、活用プログラムを進めている。

市町職員へのメッセージ

景観を良くしていくために行政と住民がその地域にとっての”美しさ・魅力“を
考え、話し合い、それを共有し、そして、その美しさや魅力を高めるために何
をすべきか、何ができるのかを話し合い、行動していくことが大切です。



田中 孝治 (たなか こうじ)

所属・役職

一般社団法人 互産互生オープン・ベース 代表理事
NPO法人 地域づくりサポートネット 会長
NPO法人 日本風景街道コミュニティ 理事
NPO法人 全国街道交流会議 理事

専門分野

地域振興（道路交通、空港等）／観光地域づくり（街道観光、サイクルツーリズム）

経歴

1990年～2010年	（社）地域・産業 所長
1985年～2009年	静岡県民間空港開設研究会 事務局長
1991年～2001年	静岡地域学会 事務局長
2001年～現在	NPO法人地域づくりサポートネット 副代表理事・代表理事・会長
2001年～現在	NPO法人全国街道交流会議 代表理事・理事
2009年～2010年	静岡大学 非常勤講師
2010年～2020年	（株）日本平ホテル監査役
2013年～現在	NPO法人日本風景街道コミュニティ 理事
2015年～2017年	常葉大学法学部 非常勤講師
2021年～2023年	（一社）しずおかスポーツプロモーション 理事長
2024年～現在	（一社）互産互生オープン・ベース 代表理事

市町職員へのメッセージ

「景観十年、風景百年、風土千年」という言葉がある。景観が壊されず残っていけば風景になる。風景が時間の経過とともにその地の人々の心に定着すれば風土になるという。景観行政は法令が基本になる。しかし景観や風景の話になると、その人の風景に対するセンスの違いを感じることがある。日本人は本来、風景を楽しむセンスに優れていたといわれる。風景を楽しむセンスを磨くことも大切なように思う。



土屋 和男 (つちや かずお)

所属・役職

常葉大学造形学部造形学科 教授

専門分野

建築史・意匠／都市形成史

経歴

1994年 芝浦工業大学大学院建設工学専攻修了

2000年 同地域環境システム専攻修了。博士（学術）。一級建築士。

2002年より常葉学園大学造形学部講師、准教授を経て現職。専門は近代日本建築史。共著に『都市デザインの系譜』鹿島出版会、1996。論文に「近代数寄者の茶会記録に見られる「田舎家」に関する記述」『日本建築学会論文集』687号、2013等。文化財建造物の調査等を行う。

市町職員へのメッセージ

建築の歴史とデザインを研究しています。地域の景観がどのように形成され、将来どのようになっていくか、特に近代和風や別荘等の文化財建造物の調査を通して、歴史的な変遷に関心があります。歴史的な建築を現代において活用、転用していくことも重要です。



東 恵子 (ひがし けいこ)

所属・役職

東海大学 名誉教授／一般財団法人清水港色彩・景観研究所 代表理事

専門分野

環境デザイン／色彩／まちづくり

経歴

1977年 多摩美術大学大学院修了 芸術学修士

1980年 東海大学専任講師を経て2004年から同大学教授

1990年から現在まで、『清水港・みなと色彩計画』の計画の立案、計画、デザインマネジメントにより景観まちづくりを進めています。また公共施設・空間の景観デザイン、静岡市内を中心に、東京ゲードブリッジ、新湊大橋（土木学会デザイン奨励賞）プロジェクト等。都市計画、景観審議会、アドバイザー等

市町職員へのメッセージ

地域の個性を活かした景観まちづくりは、地域愛を育てます。住民、事業者、行政協働による景観計画、運営等を助言。また公共空間デザイン等に設計コンサルタントや施工業者に的確な指示が出せるよう具体的にアドバイスします。



福井 恒明 (ふくい つねあき)

所属・役職

法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授

専門分野

土木デザイン／文化的景観

経歴

1955年 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了

1995年 清水建設株式会社

2000年 東京大学 助手

2005年 国土交通省国土技術政策総合研究所

2008年 東京大学 特任准教授

2012年 法政大学 准教授を経て現職

土木構造物・空間のデザインに関する具体的なアドバイスのほか、制度設計や発注方法、環境や文化財などの関連分野との調整についても相談に乗ることができます。実績については大学ウェブサイトにもリストを公開しています。

市町職員へのメッセージ

景観はあらかじめ決められた技術基準でクリアできるものではないのが難しいところです。いくつか具体的な事例で意見交換をすれば、何を目指しているか、どこに着目すればよいかは見えてくると思います。



山内 秀彦 (やまうち ひでひこ)

所属・役職

特定非営利活動法人地域づくりサポートネット 代表理事

専門分野

都市計画／環境／農山村／観光振興

経歴

東京電機大学理工学部卒業

1983年須山建設(株)勤務

1986年(株)東海開発研究所（現・東海まちづくり研究所）入社。現在、同社代表取締役。

2001年NPO法人地域づくりサポートネットを設立し、現在代表理事を務める。はまなこ環境ネットワーク事務局、道の駅連絡会静岡県事務局、ぐるり富士山風景街道事務局など中間支援組織として街道・景観・自然環境を保全・活用した協働のまちづくりを支援している。浜名湖のサイクルツーリズムの仕組みづくりにも関わり、浜松駅前でレンタサイクルステーションの運営に携わる。また、国、県、市町等の計画策定等の受託・指導助言などを行っている。

市町職員へのメッセージ

景観形成には地域の理解、合意形成が必要です。私たちは、富士山麓の朝霧高原において、行政と一緒に住民や事業者との協働で景観を向上させる活動を10年以上の年月をかけて築きあげてきました。住民と行政・企業の間にとって景観に関する理解を深めていくことができる人材と仕組みが必要です。



木下 勇 (きのした いさみ)

所属・役職

千葉大学 名誉教授／大妻女子大学大学院人間生活文化研究所 特別研究員

専門分野

都市計画／まちづくり／ランドスケープ

経歴

1984年東京工業大学大学院博士後期課程修了（工学博士）、（社）農村生活総合研究センター研究員を経て1992年9月より千葉大学園芸学部・大学院園芸学研究科にて、助手、助教授、教授をつとめ2020年3月定年退職、同年4月より大妻女子大学教授、2025年3月定年退職、同年4月より現職。

景観法制定以前から市川市で景観基本計画、景観条例の準備を職員参加で行い、市民参加の景観まちづくりを推進。現在、市川市景観審議会会長。その他、印西市景観審議会会長、鎌ヶ谷市環境審議会会長など歴任。住民主体のまちづくりワークショップ手法を日本でいち早く始め、子ども参画による楽しく住民が元気になるワークショップを推進。旧東海道沿にある安政5年築の古民家を保全のため購入し、本格移住して（一般社団法人）しずおか民家活用推進協会の副会長、（一社）こども環境学会会長、（公財）日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり委員会会長もつとめる。

市町職員へのメッセージ

いかに住民が景観の重要性を認識して、景観まちづくりのいい意味での共犯者（パートナー）になるかは、そういう共犯者的関係をどれだけの人と築いているかに関わっています。また大人を動かすには子どもたちと地域の資源（宝物）を発掘し、その保存・活用、景観を壊すものを取り除くというように、正論を進める方が「子どもの前で大人気ない」と大人に考え直してもらい、未来につながる持続可能なまちづくりになると思います。



渡邊 靖乃 (わたなべ やすの)

所属・役職

前静岡県教育委員／三島市社会教育委員

専門分野

教育 探究学習 地域連携

経歴

認定キャリア教育コーディネーター

社会教育士

ご当地グルメ「みしまコロッケ」による地域振興、三島市中央水道跡公園計画・維持管理活動、みしまびとプロジェクト(脚本づくり・ロケハンから始める地域映画製作)等、市民活動経験が豊富。非常勤講師、PTA事務局職員として、学校教育にも携わっている。

市町職員へのメッセージ

長年、地域活動と学校教育支援を行ってきました。双方の良いところを活かして、現場のニーズに合わせた提言を心がけています。私のアドバイスが、新しい教育観への対応や、個々の行動変容につながれば嬉しいです。



Everitt Tony (エバレット トニー)

所属・役職

ツーリズム静岡ジャパン（T S J） 戦略アドバイザー／国際観光コンサルタント

専門分野

国際観光

経歴

トニー・エバレットは、アジア、太平洋のデスティネーション・マーケティング・オーガニゼーション（DMO）の幹部役員をいくつか行う。この役職により、ニュージーランド、中国、シンガポール、日本、そして出生地であるフィジー共和国に在住し、勤務したことは、自身向上のための良い経験となっている。現在は、独立し、熱海市に在住、クライストチャーチ国際空港、TSJを含めた顧客に対して、観光コンサルタントを行っている。

市町職員へのメッセージ

国際観光の立場からの景観アドバイス。



青木 辰司 (あおき しんじ)

所属・役職

東洋大学 名誉教授 / (社) 日本ファームステイ協会品質評価支援研究所 所長

専門分野

環境社会学／グリーン・ツーリズム・「農泊」の推進・交流型地域活性化

経歴

1980年 東北大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学
1980年秋田県立農業短期大学講師を経て、2000年から東洋大学教授、2018年3月定年退職、同年4月から現職。
グリーン・ツーリズムを専門とし、環境共生の社会学として実践的な研究を重ね全国的なネットワーク形成を実践支援。持続可能な観光振興やツーリズムの展開にとっての景観整備や保全、さらには景観創造の意義について、社会学的な専門領域から助言。静岡県「ふじのくに景観づくり有識者会議」等の委員を歴任。

市町職員へのメッセージ

景観保全は、人間に例えれば、顔の作り方とその管理の問題です。イケメンや美少女のように、見栄えも大事かと思いますが、地域の文化や歴史、人々の暮らしの豊かさがしみ出る、質感高い景観を整備保全することは、今後の観光振興やツーリズムの発展に不可欠のものです。ぜひ静岡ならではの景観創出に尽力下さい。助言いたします。



岩崎 邦彦 (いわさき くにひこ)

所属・役職

静岡県立大学経営情報学部 教授・地域経営研究センター長

専門分野

マーケティング／ブランドづくり

経歴

専攻は、マーケティング。とくに、地域に関するマーケティングを主な研究テーマとしている。これらの業績により、日本観光研究学会賞、日本地域学会賞、世界緑茶協会学術研究大賞、商工総合研究所中小企業研究奨励賞などを受賞。

著書に、「地域引力を生み出す 観光ブランドの教科書」「農業のマーケティング教科書：食と農のおいしいつなぎかた」「引き算する勇気：会社を強くする逆転発想」「小さな会社を強くするブランドづくりの教科書」「小が大を超えるマーケティングの法則」（いずれも日本経済新聞出版）などがある。

市町職員へのメッセージ

「ブランド」は、マーケティングにおける最強の武器といわれます。では、どうすれば強いブランドが生まれるのでしょうか？

強いブランドは、成り行きまかせではできません。戦略性と創造性をもって、つくりあげるものです。研究成果と実践例を交え、地域のブランドづくりの羅針盤を考えていきましょう！



紅林 眞実 (くればやし まみ)

所属・役職

株式会社丸紅 取締役 環境事業部／執行役員
特定非営利活動法人ソラノワ 理事長

専門分野

緑地帯施工管理（企業緑地におけるカーボンニュートラル推進スキーム構築）
持続可能な地域緑地の再生にかかる管理（資金源）スキームの構築
美しい景観を持つ地域コミュニティの育成と美しい景観を楽しむ地域プロモーション
ヤギの飼養のコンサルティング（NPOソラノワ）

経歴

美術学校卒業後、広告代理店・インテリアデザイン会社にて沖縄石垣島、竹富島勤務後フリーランスとして活動後、株式会社丸紅にて「インフラ＋情報の風＝観光地域づくり」をコンセプトに大井川流域情報誌「大井川で逢いましょう」を発刊し地域人材の育成を行う。

その後「環境とビジネス」という視点で経済学のリカレントを行い、現在は環境とビジネス連動の地点で「地域景観コミュニティ再生と地域プロモーション」「緑地管理の経済循環」「企業緑地の地域価値向上」等を中心に活動実行しています。

また、NPOソラノワを運営し静岡空港周辺の活用プロジェクト推進や女性事業主の支援を行っています。

市町職員へのメッセージ

長年地域で景観、環境、地域若手人材育成の活動を行ってきました。

美しい景観も、景観の生み出す経済効果も、地域の方を巻き込んだ粘り強さが重要だとつくづく思っています。活動のかかわりの中で、一人でも多くの地域の方が、美しい環境をつくる事が地域の経済、安全、子育てにつながっていくことを実感していただければと思います。



坂野 真帆（さかの まほ）

所属・役職

株式会社そふと研究室 代表取締役

専門分野

地域づくり／観光

経歴

1996年そふと研究室として活動を開始。2007年に株式会社へ移行し、あわせて静岡県へ旅行業登録。地域づくり、まちづくりのコンサルティング業務のかたわら、『地域の魅力を形づくる人、モノ、コト、場所に出会える旅』を提案する旅行業務を行っている。

<主なツーリズムプロジェクト>

「しずおかお茶ツーリズム」“茶畑から湯呑みまで”、静岡県の茶づくりの文化にふれる旅

「頂上を目指さない富士山」富士山腹、山麓の自然や文化を楽しむ“富士下山”ツアー

市町職員へのメッセージ

地域の人々の暮らしが景観を形成します。訪れたいような景観のある地域づくりを応援しています。



佐藤 雄一 (さとう ゆういち)

所属・役職

コンセプト株式会社 代表取締役／合同会社互産互生機構 代表社員
静岡県サイクルツーリズム協議会 事務局長

専門分野

地域の自然・景観・生活・風土を活かした商品およびサービスの開発
デザイン・建築・サイン計画

経歴

2000年～ サイクルツーリズムの研究と普及活動を伊豆 浜名湖 中東遠で実践
2010年～ 富士山静岡空港就航地との「互産互消」による地域間交流を開始
2016年～ ローカルtoローカルの価値創造に取り組む組織として互産互生機構を
設立
浜松市フルーツパーク運営検討委員 (2003～04)
ツール・ド・北海道 国際大会等のあり方検討委員(2006)
掛川市景観審議委員(2011～17)
静岡県 美しい茶園でつながるプロジェクト・デザイナー(2015～17)
掛川市森林組合 新事務所 建築プロデューサー(2016～17)

市町職員へのメッセージ

地域の観光化・商品化は誘致型・外発型でなく、自立型・内発型であるべきです。
自然景観、生活風土を活かした観光・商品・サービスとは何かと考え抜くことが
求められ、他事例に当てはめるのではなくオリジナルであることが問われています。
ブランディング、マーケティング、プロモーションといった言葉に踊らされず、ローカルの本質的かつ個
性的な魅力の顕在化を「地に足の着いた商品化」という視点で、地域と共にすすめて
いきます。



白井 昭義 (しらい あきよし)

所属・役職

有限会社ブレインチャイルド 代表

専門分野

観光とまちづくり／観光マーケティング／観光事業論／中小企業経営支援

経歴

昭和48年 韮山高校卒

昭和52年 同志社大学商学部卒、静岡銀行入行

平成17年 静岡銀行退職、現法人設立し代表となり現在に至る。

平成18年～平成26年 富士常葉大学非常勤講師として、観光とまちづくり・観光マーケティング・観光事業論 を担当。経営支援においては旅館業を中心に個別顧問先を指導し業績を向上させる。また同時に顧問先の該当地域の活性化を図る。東部地域グランドデザイン策定委員、三島市ガーデンシティアクションプラン策定業務担当 等活性化に貢献

市町職員へのメッセージ

行政が主導し、地域の景観につき発案したものを地域の住民とともに検討を重ね、合意の上進めていくなどのディレクションも実施可能です。またこのことが持続可能な協力体制を作ることができると思っています。今まで県・地方行政との委託事業も多く受託しております。（中小企業基盤整備機構地域資源活用支援アドバイザー、認定経営革新等支援機関、6次産業化サポートセンター専門企画推進委員、県産業振興財団ほか数件の商工会などの専門家登録者、県東部地域スポーツ産業振興協議会理事）



廣住 和良 (ひろずみ かずよし)

所属・役職

株式会社ディスタンス・インターナショナル 代表取締役

専門分野

コミュニケーションプラン／コピー・デザイン

経歴

非常勤講師（広告概論・コピーライティング）

- ・ 静岡デザイン専門学校（2014年～）
- ・ 浜松未来総合専門学校（2013年～）

言葉やデザインによってコミュニケーションの問題解決に取り組み、印刷物、WEB、イベント、キャンペーン等のプランニングを行う。

静岡県景観賞30周年記念行事や景観ビジュアルデータ作成などにも携わり、「静岡どぼくらぶ」「エスパルス福祉基金」「メディメッセージ」など、企業と地域社会の問題をつなぐ活動にも多く関わる。

市町職員へのメッセージ

広告をはじめとしたあらゆる表現が、主張する時代から共感する時代、協働する時代へ変わりました。よりよい景観づくりのために、イベント、Web、印刷物などの手法を使って何ができるのか、様々なアプローチによって景観の価値を共有できるようにアドバイスいたします。



堀川 知廣 (ほりかわ ともひろ)

所属・役職

静岡産業大学 学長

専門分野

農業政策／産業政策

経歴

1974年3月 名古屋大学農学部卒
1974年4月 静岡県採用（30代まで茶の病虫害の研究、40代以降は行政）
2011年3月 静岡県経済産業部長で退職
2012年4月 静岡産業大学教授
2016年4月 静岡産業大学 情報学部長
2017年4月 静岡産業大学 副学長・情報学部長
2020年4月 静岡産業大学 学長補佐・情報学部長
2022年4月 静岡産業大学 学長

市町職員へのメッセージ

国内外から訪れたお客様に、わが街の歴史、自然、産業、文化、おいしい食べ物などを説明できるようにしておくことが必要だと思います。



山本 早苗 (やまもと さなえ)

所属・役職

常葉大学社会環境学部 教授

専門分野

社会学（環境社会学）／民俗学／社会調査法

経歴

2007年 関西学院大学大学院社会学研究科・博士後期課程修了。博士（社会学）取得。

2008年 北京師範大学文学院・高級研究員（～2010年）

2010年～ 富士常葉大学講師

2014年～ 常葉大学社会環境学部准教授

2023年～ 常葉大学社会環境学部教授

環境社会学を専門とし、これまで住民参加型調査や聞き書き（ライフストーリー法）の手法を生かして、伊豆半島における地域資源の発掘や地域文化の世代間継承に取り組んできました。また、学生らとともに、棚田保全ボランティア活動にも長年携わり、地域活性化へとつなげています。近年は、テラス農地景観（傾斜地農業）保全のための国際比較研究に取り組んでいます。

市町職員へのメッセージ

それぞれの地域が有する個性や魅力を生かした地域づくりができるように、お手伝いします。世代を超えてローカルな技術や経験、知恵をつないでいくことが重要と考えているので、子どもから高齢の方まで、幅広い年代層が参加できるような地域づくりのしくみを具体的にアドバイスします。



卯月 盛夫 (うずき もりお)

所属・役職

早稲田大学 名誉教授／参加のデザイン研究所 顧問

専門分野

ユーザー参加の公共施設づくり／こどものまちづくり

経歴

ドイツ留学中に市役所に勤務した経験から、帰国後は世田谷区都市デザイン室に10年間勤務。

その後、世田谷まちづくりセンターの発足とともに所長となり、公益信託世田谷まちづくりファンド等による住民主体のまちづくり支援に従事。

1995年に大学に移籍してからは、東日本大震災の被災地復興を含めてさまざまな住民参加の現場で実践と研究を行ってきました。近年は「こどものまちづくり活動は大人を変え、社会を変える」と信じ、こどもまちづくりファンドの普及に努めています。1953年東京生まれ、建築家、都市デザイナー、博士（工学）。

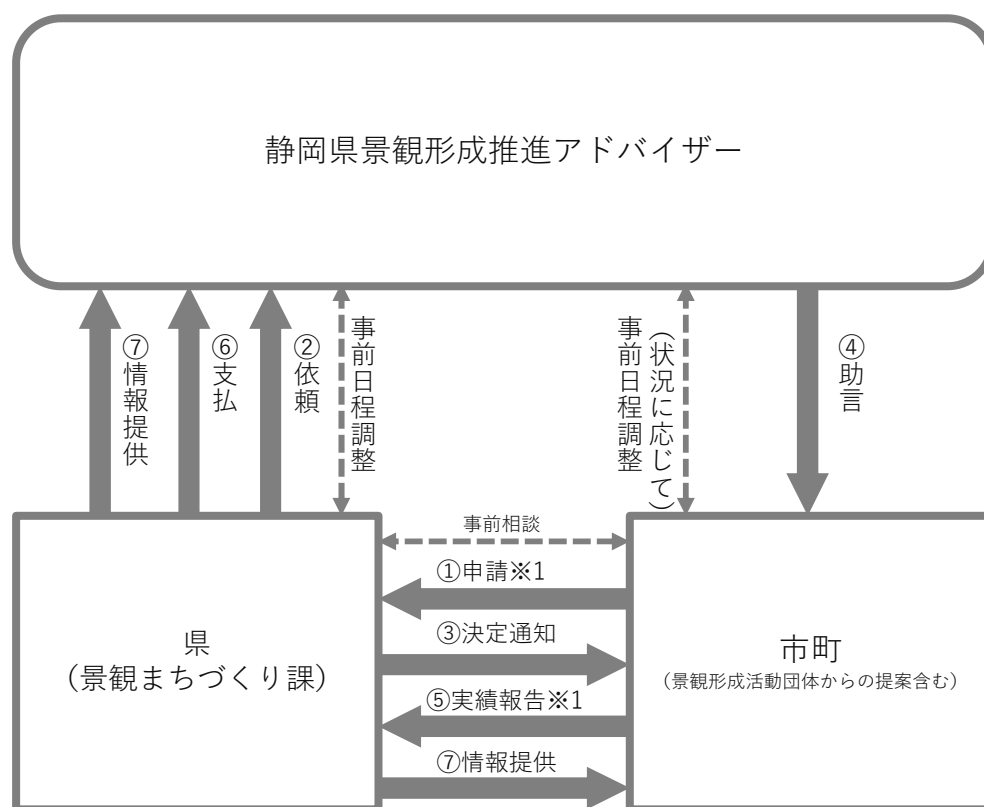
市町職員へのメッセージ

市町村の職員は、「法律や条例、さらに上司の考え方」と「住民の意向」との間で板挟みになることがあります。このような場合、調整をしながらどこかで接点を見出すことが必要です。少しでも良い解決方法を共に見出しましょう！

静岡県景観形成推進アドバイザー制度の概要

市町の皆様が進めるまちづくり（公共施設の設計・施工や景観計画の策定等）を、景観形成の視点から支援するため、皆様からの申込に応じて、景観、まちづくり等の専門家をアドバイザーとして派遣します。

申込ができる方	静岡県内の市町（指定都市は除く） 景観形成活動団体が、自らが行う景観形成に寄与する活動について、活動所在地の市町（指定都市は除く）に対し、アドバイザーの派遣を提案することもできます。
費用等	派遣に要する費用のうち、旅費、報償費を県が負担します。 現地での会場の手配、備品の用意（配布資料、パソコン、プロジェクター等）、最寄駅からの講師の送迎等は申込者にて対応してください。
対象事業 ()内は県が負担する報償費	市町が実施する次のもの (1) 公共施設の色彩・デザイン等の検討（36,600円/日） (2) 景観に関連する計画の検討（5,250円/時間） (3) 景観形成の啓発に係る講演（28,000円/時間） (4) その他良好な景観形成に資する取組（(2)と同じ）
アドバイザー	名簿に登録されている景観、まちづくり、観光、教育等の専門家 36人
申込方法	申込者が名簿の中から選択し、県に申請



※1 市町の景観行政担当課経由

静岡県景観形成推進アドバイザー総覧

令和7年4月発行



静岡県交通基盤部都市局景観まちづくり課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6

TEL 054-221-3490 FAX 054-221-3493 E-MAIL keikan-machi@pref.shizuoka.lg.jp

<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/keikan/keikan/1029815.html>